

## 会議録（要旨）

件名	平成28年度 第3回亀岡市行政改革推進委員会		
日時	平成29年2月22日（木）	報告者	企画調整課 行政改革係 主任 佐藤 由紀子
	午後3時00分～午後4時50分	場所	市役所2階 202・203 会議室
出席委員	11名：牛田 眞／大嶋 雅子／小川 泉／桂 喜久子／木藤 伸一朗／坂本 信雄 佐藤 裕見子／田中 美賀子／松尾 和美／松本 圭史／森下 明美		
欠席委員	3名：木戸 庸介／服部 公子／前平 貞二		
事務局出席者	5名：木村企画管理部長／田中企画調整課長／小塩企画調整課副課長 佐藤主任／上西主事		
傍聴者数	1名		
次第	1. 開会 2. 議事 （1）平成28年度収納率向上対策に係る取組結果（12月末）について （2）平成28年度行財政改革実施計画の取組結果（12月末）について （3）平成29年度行財政改革実施計画（案）の策定について 3. 報告 （1）今後のスケジュール等について 4. 閉会		

### 1 開会（企画調整課長 進行）

只今より平成28年度第3回行政改革推進委員会を開催する。

本日、木戸委員、服部委員、前平委員については欠席の連絡をいただいている。過半数の出席をいただいているので本委員会は成立している旨、ご報告申し上げます。

### 会長挨拶

来週月曜日から、市議会が開催される。新年度予算や人口減少対策、スタジアム関係など様々な懸案事項が審議される。スタジアム関係では、2月16日に駅北地区に係る都市計画公聴会が開催され10名以上の市民が参加されていた。

今週月曜日に都市計画審議会では、枚方に枚方市駅周辺の都市整備と再開発について先進地視察を行った。枚方には、昨年4月にオープンしたTSUTAYAをキーテナントにしているTサイトという大きな駅ビルがあるが、それ以外にも駅北に大学病院等を集約し、駅南も再開発に取り組んでいる。ただ、レクチャーを聞く分には素晴らしいと感じたが、すでに建築物も多くあり現実はなかなか厳しそう。亀岡は駅北が現在更地であるので、開発はまだしやすいと思うが、再開発には失敗事例も多いので上物についても有効なものを検討していかなければならないと感じたところである。

本日は12月末の行財政改革の取組結果と来年度の計画案について審議いただきたいと思うので宜しくお願いしたい。

## 2 議 事

### (1) 平成28年度収納率向上対策に係る取組結果(12月末)について

資料1-1、1-2

事務局 <資料に沿って事務局から説明>

### (2) 平成28年度行政改革実施計画の取組結果(12月末)について

資料2-1、2-2、2-3

事務局 <資料に沿って事務局から説明>

#### 会長

今期の状況としては、未達成は0で順調に進捗している。この後の議題で来年度のプランを検討する。第4四半期終了を待って計画を立てるのが本来であるが、第3四半期までの状況で新年度計画を立てるのでこのことも踏まえてわからないことや提案をお願いする。

#### 副会長

ホームページのことであるが、知り合いの子育て中の方から行政のホームページと思えない位良いよねという意見を聞いた。また子育て包括支援センターに視察に来られる方からも市のホームページは好評である。リニューアルに際しては、私も担当課から何度も連絡をもらい、NPOのホームページともリンクを貼らせてもらった。情報公開や情報発信に力を入れているという言葉どおり力の入った内容になっていると感じる。

#### A 委員

収納率の説明があったが、若干よくなっていると思う。現場で収納率アップについてどう問いかけをしているのか。ただ、「払ってください。」では未納者も払えない。英国のブレア政権下の話であるが、未納者に「あなたたちは少数派ですよ。少数派にはなりたくないですよ。」と訴えるキャンペーンをしたら、収納が向上した。日本でも問いかけ方法を工夫していく必要があると思う。

「いいね!プロジェクト」は新しい取組で、よい取組だと思う。この場にもオープンにしていだければと思う。行政には30以上も審議会がある。市民参加型の審議会をどう活性化するかは課題である。参加度合を高めるためには提案型に持っていくのはどうだろうか。だいたい審議会は「ああ、そうですか。」で終わっている。ただ会を開くのでなく委員の思いをポジティブに活かしていくことを検討してもらいたい。

確認になるが、進捗率の「◎」や「○」は、原課で判定してつけているのか。原課での判断になると、自分たちのしていることをネガティブに言いたくないものである。原課ではなく、総括課である企画調整課で評価するべきだと私は考える。

#### 事務局(副課長)

目標設定を原課で行っているため、進捗の判断も原課で行っている。

#### B 委員

介護保険料について、前回「△」だったが、今回は「◎」になっているのはよいことだ。しかし、過年度分は低下している。その原因は何か。し尿くみとりも第2四半期とほとんど

変化がないのに「△」が「◎」になった理由は何か。

情報公開について、ホームページの話もあるが、超高齢者への情報公開の推進をしてもらいたい。超高齢者は、タウンミーティングにも行けず、インターネットも見られない。TVのみの人もいる。そういう人を考慮した取組を望む。

ふるさと納税は、現在過熱しすぎていると感じる。これに頼りすぎることのないようにしてもらいたい。市税等の収入も高齢化や人口減少等で厳しい状況と思う。財政の引き締めも含めその辺りもしっかり踏まえていただきたい。

### **C 委員**

「いいね！プロジェクト」について、職員の政策提案という視点で、どこまで市民ニーズをとらえた課題解決につながる提案があったのか。また提案を庁内で公表したということであるが、どう評価したのか。次年度や何年後になるかもしれないが、政策に反映され実現した提案はどの程度か。

### **事務局**

介護保険料の過年度分については、昨年度より下がっている。原因について原課に確認もしているが、これといった特定は難しい。し尿の過年度については、目標値以上の収納率を達成したため、「◎」としている。

### **B 委員**

第2四半期と第3四半期の目標値が変わっていない。

### **事務局**

目標値については、確認を行う。

### **D 委員**

報告の前に資料の表の見方を説明してもらえると混乱しないので次回から願います。

### **A 委員**

収納率の表であるが、納付者の数や件数を記載することはできないか。件数と金額がわかればよりわかりやすくなる。

### **事務局**

決算時には、件数を記載した資料を提示している。

### **会長**

可能であるならば、次年度からは収納件数と人数、全体の金額を収納率の表に入れてもらいたい。ただ、市税・国保・介護とその他の料金では、金額のレベルが違う。中でも市税は100億近いのでこの動きが一番重要になる。

ふるさと納税については、業者の委託料や他市へ出ていくものは大きいのか。そういったデータがあるのであれば、確定した段階で示してもらいたい。

### **事務局（企画管理部長）**

ふるさと納税の本来の趣旨は、都市部に集中する税をふるさと（地方）に戻そうというもの。2,000円を超えた控除対象分は戻ってくるが、寄附者に損をさせないものとして返礼品が始まった。これがだんだんエスカレートしていった。総務省からも換金性の高いものについては指導が入っている。亀岡市では、地元の商品でまちのPRになる品について、40%分を返礼品としている。亀岡の商品をみなさんに知っていただくことで購買にもつながる。本来の趣旨に戻って返礼品をなくすと他市町村に流出する分が多くなってしまう。市長のチャ

レンジビジョンにもあるが、このため1億円を目指した取組を進めたものである。

#### **事務局（副課長）**

「いいね！プロジェクト」についてであるが、今回の「いいね！」はこれまでの政策提案とは趣旨が違うものである。先ほどの説明にもあったが、政策提案はハードルが高い。気軽な提案制度として「思いついたことを言ってもいいよ」で始めたのが、「いいね！」である。気軽に発案したことが実現していくことで、職員の意識改革につながり「かめおかっていいね！」と言われるまちづくりにつなげていこうと実施している。現在集計中ではあるが、15%程度が実施され、20%くらいは検討されている。提案について市長が全部長とヒアリングを行い丁寧に進めているため、ある程度政策に結びついている。大きな政策がすぐできるわけではないが、小さなことから進めている状態である。まとまったらみなさんにご報告させていただく。

#### **事務局（企画管理部長）**

提案の中には、直接市民サービスの向上につながらないものもある。市民サービスの向上につながる取組が一番であるが、内部のコスト削減につながる提案もある。

#### **副会長**

「いいね！」で実施されているものは、現在予算を伴わないものだけだと思うが、予算があるものはどうしていくのか。またふるさと納税が拡大して業務が増えていると思うが、体制はどうなっているのか。

#### **事務局（企画管理部長）**

現在ふるさと創生課で、他の業務もあるが4名で対応している。業務は増えており超勤等の経費もかかっている。最終集計をしないとはっきりとは言えないが、人件費を除いて4割程度が残るお金となる。収入と経費だけを考えた差し引きはプラスになっているが、市外流出分については、集計しないと出ない。

#### **A 委員**

ふるさと納税は、ゼロサムゲームであり、安定財源にはならない。来週の日経新聞に原稿を出しているが、ふるさと納税については、制度自体を見直す方向になるのではないかと考えている。現制度では、税負担が不公平になるとして、税法関係の先生方は当初から反対だったと聞いている。

#### **事務局（副課長）**

「いいね！プロジェクト」については、当初予算の要求に間に合うよう進めていったものである。現在進行しているものは予算のないものからになっている。今後については、思ったことを提案するだけでなく自ら立案していくというこれまでの政策提案制度と組み合わせた方法を検討していく予定である。

#### **E 委員**

ふるさと納税が1億円以上となり、プラスになっていることはわかるが、市全体の財政のどの程度を補っているのか、資料を見てもわからない。一市民でもわかる伝え方で伝えて欲しい。「こういうことをした結果、ここがこんな風になりました」という風に、ホームページやキラリ☆亀岡で普通の市民レベルでわかる報告方法を考えてもらいたい。

## 事務局（企画管理部長）

ふるさと納税で寄附いただいた資金は、一旦プールして平成 29 年度予算で使わせていただく。一つは多子世帯（3人以上お子さんがいる世帯）を対象とした中学卒業までの医療費助成拡大に使わせていただく。こんなことにふるさと納税を使うという広報資料も作成している。1週間後くらいには、ホームページで公表する予定である。

市外流出分を勘案した差し引きになると、少なくなる可能性もあるため、1つの事業で使い切ってしまう可能性もある。詳しい使い道等については、またお知らせしたい。

## （3）平成 29 年度行政改革実施計画（案）について

資料 3-1、3-2

### 事務局　　<資料に沿って事務局から説明>

#### 会長

48 項目という 29 年度実施計画の項目数が見えない。どこかに項目数を入れてもらいたい。現時点での状況で来年度の計画を立てることになるが、ご意見を願います。

#### 副会長

No.50「市民活動団体への活動資金の確保」については、第 2 次まちづくり協働推進実施計画に基づいて書かれているが、現在基金の立ち上げの最中である。当初は「市民活動団体の活動資金確保」を目標としていたが、話し合う中で「亀岡の地域課題を解決するための事業を応援する基金」に方向性が変わりつつある。変わった場合はこの調書はどうなるのか。

#### 事務局（副課長）

まだ変更は可能である。

#### F 委員

（公財）京都地域創造基金とはどこの組織なのか。京都地域創造基金内に基金を設置とあるが、どういうことか。どんな組織で、誰が基金を作るのか。調書を読んでもわからない。

#### A 委員

民間サイドの資金集めである。行政が直接資金を集めるものではない。京都地域創造基金は、京都市に設置される公益財団法人である。寄附は寄附金控除の対象となる。

#### F 委員

調書では、基金の設置者が亀岡市であるというように読める。亀岡市と直接関係のない公益財団法人の活動（基金設置）を生涯学習部の目標とするのはおかしいと感じる。誰が設置するのかははっきりさせてもらいたい。

#### 事務局（企画管理部長）

（公財）京都地域創造基金の中には、いろいろな団体の基金が存在しているが、この中に生涯学習部から働きかけて基金を作り、「こんな事業に使います」ということを全国に PR して市民から応援資金（寄附）を募るもの。まずは器づくりをしている。どう使っていくかというのは先の話になるが、現在検討いただいている。

#### F 委員

市の方針として亀岡が基金を運営するということか。そのために実際に市民活動をしてい

る人たちの意見を聞きながら生涯学習部が進めているという理解でよいか。

### **事務局（企画管理部長）**

亀岡市が働きかけるということ。基金を設置して賛同いただける方の寄附を集めたい。

### **A 委員**

亀岡市は市民活動団体を育成し支援する看板を掲げている。現在基金を運営している公益財団法人を窓口基金を設置して集まった寄附を市民活動に活用していく。

### **F 委員**

「基金を利用して」にしないと、基金と亀岡市の関係性がわからない。この表現だと誰が何をするのか、財団がどこにあるのかもわからない。表現を工夫してもらわないといけない。事業を問題視している訳ではなく、内容がわかりにくい。

### **事務局（企画調整課長）**

F 委員のご指摘どおり、新規項目については、別途資料をご用意すべきであった。来年度の会議で新規事業の内容がわかる資料を準備する。

### **C 委員**

国勢調査では人口が9万人を切ってきている。税収も減っていく。亀岡市のプランを見直す必要があるが、市がすべきことと、民がやるべきことの住み分けを考えていかないといけない。重要な問題として人口減少があるが、格差問題や子どもの貧困問題もある。まちの持続可能性を考えてしっかりとデータを見ながら問題解決に当たってもらいたい。以前この委員会でも人口推移等の資料を見て審議したことがある。公のあり方を検討する時期になっているとも感じる。

### **事務局（企画管理部長）**

平成27年度に総合戦略と人口ビジョンを策定した。これが以前見ていただいたデータだと思う。特効薬はないが、亀岡市は、第4次総合計画を推進している。総計の10万人の目標値については、議論があるところであるが、あくまでも目標は10万人であり、亀岡市にはそのポテンシャルはあると考えている。亀岡市が人気のあるまちにならないといけない。原因を分析しながら行政として情報発信をして進めていきたい。定住促進には、雇用の問題もある。目に見える形としては区画整理事業を大井町南部と駅北で行っている。雇用の場を作ることによって定住促進につなげたい。行政として取組を行ってはいるが、なかなか目に見える形にはならない。機会があるごとにそういったお話しもさせていただきたい。

### **B 委員**

市立病院の新改革プランの目標数値はどうやって出しているのか。28年度までは目標がなかったが、なぜか。

### **事務局（副課長）**

現在策定中の「亀岡市立病院新改革プラン」によるものである。一言で説明ができないため、来年度になるが、病院からプランについて説明をする機会も設けたい。28年度までは新改革プランがなかったため、行革の実施計画では目標値を設定していなかった。

### **事務局（企画管理部長）**

病院については、以前にも改革プランがありその目標を引き継いだ目標値はあった。しかし医師不足等によりなかなか達成できない状況だった。その辺りも病院に来てもらう時に説明をしてもらうようにする。

## D 委員

要望になるが、まず1点目No.42「職員による政策研究提案の促進」の計画変更である。出した企画が制度として実施されると職員のモチベーションは上がる。他の課の業務内容を提案することは難しいことだが、こういった提案は職員の資質向上にもつながる。財政を優先するとどうしても企画が小さくなるが、すぐにできないことでも企画案をつぶさないようにしてもらいたい。2点目No.47「子育てワンストップ窓口の設置」であるが、現状は待合が手狭である。昼休みの空いた時間を利用して市民が集中して来られるため、現場職員は昼休憩がとれないという状況である。来庁者の待合スペースが確保され、立って順番を待つよりソファがあって音楽が流れているといった環境であれば、待ち時間も少しは心が和らぐと考える。カウンターの外で待っている人の心を和らげる取組を検討して欲しい。できれば福祉事務所にも待合スペースを作ってもらえれば各部署での対応トラブルも減少するのではないかと考える。

## 会長

本日いただいたご意見は、事務局が調整をして文言修正等を行っていく。またお気づきの点があれば事務局にご連絡をいただきたい。29年度実施計画について大枠でご了承いただけたのでこれを基に進めていく。

## 3 報告

### (1) 今後のスケジュール等について

**資料 4**

## 事務局 <資料に沿って事務局から説明>

## 会長

年間スケジュールであるが、7月の段階で28年度の数字が分かるということである。第1四半期の数字も出ているはずである。これと今提案のあった重点事項審議、決算と新年度予算の重点項目の簡単な説明も入れてもらいたい。本来のサイクルとしては、1年間の予算決算が終わって本委員会の議論がどう亀岡市の次の予算や行政改革に反映されているかを確認できればよいと考えている。3月議会以降亀岡市も大きな事業が動くと思うので、本委員会としてもできる範囲内で亀岡全体の切迫した財政状況をどうするかということと、通常の四半期の点検を行いたい。それと重点事項として病院の話もある。病院には以前にも来てもらったことがある。

重点審議項目については、来年度48項目の中で所管課を呼んで審議したいものについて各委員からご意見があれば、また事務局までお申し出いただきたい。また調整をする。先日打合せの際には、行革を行革しないといけないという話が出た。総合計画の進行管理と行革の進行管理がほぼ同じことをしている。また審議会については、9万人の都市にしては数が多すぎて非効率だと感じる。

## 事務局(企画管理部長)

新年度予算については4月から始まるので早い時期にご説明をさせていただきたいと思うが、そのためだけに集まっていただくよりも7月でお願いできればと考える。内容等につ

いてはまた会長と調整させていただきたい。

#### **F 委員**

前回審議会の話が出ていたので、ホームページで探したが、なかなか見つからなかった。ホームページが良くなったという意見もあるが、目的を持って知りたいことを探す場合、探しにくい。11月で取組終了ではなく、今年いっぱい振り返りを行ってもらい、現状に満足することなく次の見直しに備えてもらいたい。

#### **G 委員**

行革の取組結果については、広報しているのか。

#### **事務局**

毎年ホームページとキラリ☆亀岡で公表している。

#### **会長**

他にないようであれば、以上をもって本日の協議事項は終了する。

#### **事務局(企画調整課長)**

会長におかれましては、円滑な議事進行をしていただき有難うございました。

また各委員のみなさまには熱心にご議論いただきありがとうございます。

## **4 閉 会**

#### **事務局(企画管理部長)**

委員の皆さまには長時間わたり、熱心な議論、そしてまた貴重かつ多様な意見をいただき、誠にありがとうございました。

亀岡市は、非常に厳しい行政運営の局面を迎えており、平成19年には106億円であった市税収入が平成29年度当初予算は97億円となっている。過去には当初予算から決算額があがる右肩あがりのこともあったが、現在は経済状況によって見込額から落ち込む場合もある厳しい状況である。亀岡市は「持続可能な行財政運営」を掲げている。みなさんにご審議いただいている行政改革は欠くことのできないものである。本日いただいたご意見、ご議論いただいた内容を精査して行政改革に生かしていきたい。今後も行政改革だけではなく、行政全般に対しても忌憚のないご意見をいただきたい。

本日は、ありがとうございました。

以 上